

令和6年度第1回学生と教員とのFD懇談会実施記録

期 日：令和6年8月1日（木）15：00～17：00

場 所：八木山キャンパス1号館3階133教室

出席者：各学科から8名の学生、FD・IR企画部会委員から9名、
内部質保証推進委員から教職員2名、事務局

司会よりFD活動および学生FD懇談会の趣旨について説明があり、また学生に対して自由に率直な意見を述べてほしいとのお願いがあり、懇談会が開会した。

前期授業評価アンケート（中間-授業改善要望、期末-振り返り）について

- 中間アンケートに答えてくださいという周知（教員からの）は、どの科目でも行われていたと感じている。アンケートに答えようと思う科目は非常に面白かった授業や、不満点が多く、受けていて辛かった授業など、評価が極端な科目が多いと思った。
- 特に良い部分も悪い部分もない科目については、回答しない傾向にあると思う。中間アンケートと期末アンケートの負担感は、かなり減っていると感じている。去年と比べると回答にかかる時間が減っているため、負担感が減っているのはすごく良いことだと感じた。
- 期末アンケートの方が、先生から「やってください」という指示が明確だったと感じた。そのため、中間アンケートの回答率が低くなったのかもしれない。
- 去年に比べてアンケートの量が少なくなり、負担はかなり減ったと思う。しかし、去年の経験で「面倒だな」と感じた学生は回答しないため、回答率が低くなったかもしれない。
- 期末は、先生からの指示があったため回答するようにはなった。2～3週間にわたって言われたと思う。ただし、中間アンケートでは、目標回答率など示されなかったもので、言ってもらえれば、協力してくれる学生も増えたはず。
- 中間アンケートが匿名であることについて知らなかった。このため、授業評価アンケートの回答内容によっては先生との関係が悪くなるのではないかと心配してしまっていた。負担感に関しては、先生方が授業の最後の5分などで時間を取ってくれたため特に負担を感じることはなかった。
- 先生によって、周知の仕方やアンケートに回答する時間を取るかどうかは異なるが、中間アンケートでも期末アンケートの時のように、周知するだけでなく、時間を取れば回答率が上がると思う。負担感については、確かに減ったと感じた。ただ、もう少し負担を増やしても（質問を増やす）いいのではないかなと思う。逆に減らしすぎて大丈夫なのかなと、少し心配している。
- 周知はどの学科でもされていたと思うが、学生たちには「どうせ期末にアンケートをまたやるから、中間はやらなくてもいいかな」という気持ちから中間アンケートを回答しなかった学生が多かったのではないかと感じている。負担感については、私の学科では中間の方が期末よりも負担感が多いと感じる学生がいた。私の考えは、設計の授業はグループワークなどがあり、前半と後半で分かれているため、前半で不満を感じた場合は中間アンケートで回答し、後半に改善が進むことで期末では回答率が低くなったのではないかなと思う。満足度の高い授業については、わざわざアンケートに回答しない学生が多かったのかもしれない。一方で、中間も期末も何かしらの不満があった場合に、必ずアンケートに回答する学生が多かったように思う。

- 中間アンケートの周知に関しては、期末アンケートほど徹底されていなかったという印象を受けた。特に期末アンケートは、「絶対にやらなければならない」という強いメッセージがあり、先生方も時間を取って真剣に対応していた。個人的には、中間アンケートで「授業で先生の声が小さい」という旨を書いたところ、その先生からフィードバックがあり「ボリュームを上げます」と周知してくれ、アンケートがしっかりと活用されているのだと感じた。負担感については、私は特に負担を感じなかった。むしろ、アンケートを通じて先生とのコミュニケーション手段が増え、自分の思いを伝えることができるのは良いことだと感じたが、他の学生の中にはやらされている感が強かったようだ。
- 中間アンケートの回答率について、やはり周知不足だと思う。期末のアンケートでは、目標回答率 80%以上と先生から厳しく言われていた。しかし、中間アンケートについては、そもそも知らない学生も多いように感じた。負担感について、例えば授業の最終回やテスト終了後に、回答率 80%を超えるまで教室に残らなければならない状況があり、休み時間にまで影響した科目もあった。目標回答率が負担に感じるがあった。
- 中間アンケートの回答率が低いのは、そもそもアンケートの存在を知らないという学生が一定数いるのかなと感じる。さらに、中間アンケートと期末アンケートのどちらにも共通しているが、私が所属しているグループの中では、アンケートをやらなきゃという意識が低いと感じる。私自身も含め、周囲の学生全員がアンケートに対して時間を割く優先度が非常に低いと感じている。負担感については、アンケート自体は短くなったことで回答の負担は減ったと思う。しかし、教員から目標回答率 80%のプレッシャーをかけられたことがあった。実際に「授業が終わらない」「バスに乗り遅れる」といったことがあったため、アンケートの実施方法については再考してほしい。アンケートは学生にとってかなり負担が大きいと感じている。
- 10 月から 11 月あたりにあった集中講義に対し、翌 1 月下旬に期末アンケートが行われても、授業のことを忘れてしまっていて評価がしづらかった。

前期授業評価アンケート（満足度）について

- 多分、学生は楽しんで良い点数を取りたいと思っている。そうすると、思ったよりテストが難しかったり、後半になるにつれてレポートが増えたりすることがあり、そのように難易度が上がると学生は面倒に感じたり、点数を取りづらくなる。その結果、満足度が低くなると思う。楽しんで単位を取れた方が満足度は高いと思う。
- そもそも人は成功体験があった方が自己肯定感は上がるもの。どうしても難しい科目だと、勉強しても高い点数が取れず、結果的に自己肯定感が下がってしまい、結果、満足度も下がる。

出席管理について

- 出席を取るために、てくポを押して他の場所へ行ってしまう学生がいると教員から共有されている。真面目に授業を受けている側からすると、非常に不愉快。てくポのシステムを改善する必要があると思う。
- ある授業では、授業の最後に記名式の出席確認に切り替えた先生や、一人ひとりの出席確認を行う先生もいた。教員自身にも自分の時間や研究する時間があり、それを削ってまで学生の出席確認に費やすのは大変そうに感じた。
- 実習系の科目では、各グループが設計室や移動教室に集まって出席確認を行う必要がある。そ

の際にてくポが機能していないようで、てくらボの 2 階や 3 階まで行って出席確認をしなければならず不便だった。また、友人から聞いた話では、親御さんが出席確認システムを見た際に、「全然出席していない」（実際は出席できている）と指摘されて心配されることもあったと聞いたので、改善をお願いしたい。

受講モラルについて

- 先生方からも指摘されているが、授業中に写真を撮る行為（SNS アプリ）が横行している。
- 真面目に講義を受けている側からすると騒ぐなら出て行ってほしい。
- 勉強する気がないなら、迷惑なので教室から出て欲しい。「そんなにうるさくするなら、外に出てください」と注意して欲しい。
- 一部のクラスで騒ぎすぎる場面があり、先生が怒ることがあった。どういう気持ちで授業を受けているのか疑問だった。

その他（再試験受験料の相場観について）

- 金額には納得しているが、学生の収入が限られていて、最近の物価高で食費なども増え、生活が多少逼迫されるため現在のまを維持してほしい。
- 再試験受験料を払って再チャンスが与えられるのであれば非常に安いと感じる。再試験受験料は大学側へのプラスで、再試験実施の先生方への時給分として追加料金を取るべきだと思う。料金が高くなれば、学生たちは諦めるか、もしくは「落とさないように頑張ろう」と思うようになる。少し高めに設定することが絶対に良いと思う。
- 今の再試験受験料は高いようであり、安いようでもあり、個人的にはとても妥当だと感じた。
- 料金一律ではなく、科目の難易度ごとに料金を変えた方が良いのかなと思った。例えば、再試験を受けても 7 割しか合格しない科目があった場合、大学側にも学生側にも少し厳しい状況だと感じる。大学生の中には金銭的に余裕がない人も少なくなく、再試験を受けるかどうかを金額によって決める場合もある。難易度ごとに料金を設定し、合格率が低い科目は低めの料金、高い科目は高めの料金するなど調整が良いのではないかと思う。

その他

- 仕切りのある机で集中して勉強したいため、図書館の土日開館を希望したい。
- 八木山キャンパス図書館と 4 号館の Wi-Fi 環境の改善。
- 学科演習室の使用方法が分からない。
- 学生の交通モラル（バス・バイク）指導。
- 給付奨学金の対象となる者への案内強化。

最後に、渡邊学長より、毎年、学生の皆さんと意見交換するこの懇談会は、私にとって非常に楽しみな会であり、今年も様々な新しい意見を聞いた。特に、授業評価を中間評価と期末評価に分けて行ったことは画期的で授業改善に役立つと思っている。学生と教員が共に講義を作り上げていく姿勢が評価される時代だが、学生が意見を言いにくいという点は変わらず、意見を引き出す工夫が必要である。今年も良い会となり、学生の皆さんに感謝している。との挨拶があり、閉会した。

